

担当教員の研究

不動産売買契約の方式

私の研究内容は、民法の中でも、財産法と環境法に関する内容がメインとなっている。

より具体的にのべると、財産法の中でも不動産の売買契約と所有権譲渡の方式についての研究を中心に行っている。この不動産の売買契約と所有権譲渡の方式については様々な方法があり、実務上でも様々なトラブルを巻き起こしている。

たとえば、不動産を購入する際に一般的には契約書の作成が行われていると考えられるが、民法の規定ではどうなのであるか。また、民法以外の特別法の規定ではどうなっているのだろうか。仮に、法律に規定されている方法以外で契約が締結された場合、契約は有効に成立するのであるか。契約の交渉段階における契約当事者間の取り決

大学生活を有意義に
楽しんでください。

め等の問題について法律上ではどうなのか。このような事柄について判例および学説を参考にした上で、実務においてトラブルを未然に防ぐ方法を模索している。

自然再生に関する法的問題

環境法については、自然再生に関する法的な問題についての研究を行っている。自然再生といっても多岐にわたるが、その中でも、海辺の自然再生について重点的に研究を行っている。

この自然再生が行われることにより、地球温暖化、生態系の破壊等の様々な環境問題について対応可能である。海辺の自然再生を行うにあたり、海浜および海中で単純に

金光寛之
研究室

様々な自然再生事業を行えばよいと考えられるが、海浜および海中には様々な法律上の規制がからみあっており、また経済との両立を考えると自然再生のみを行うことは不可能である。

そこで、自然再生とその他の法律との関係および諸問題をいかにして解決すべきか、ということについて研究を行っている。



教員の情報

職 位 教授

専門分野 民法、環境法

担当科目 民法総則、物権法、債権法、演習

小宮輝之監修

『つれてこられただけなのに
—外来生物の言い分をきく—』

偕成社

書棚から
この一冊

ゼミの活動内容

金光ゼミナールでは、民法に関する日常的な事例問題の課題を与え、その事例問題の法律関係についてゼミ生に調べてきてもらい、発表をしてもらっている。

そもそも民法は、我々が日常生活における事柄、たとえば物を購入したり、アパートを借りたり、アルバイトをしたり等の法律問題について規定したものである。抽象的な概念である法律というものが、我々の具体的な日常生活にどのように役だたせるかが金光ゼミナールの狙いである。

また、ゼミ生からの希望があれば裁判所等の見学やゼミ合宿も行う次第である。

黒川基裕 研究室



開発経済学との出会い

大学3回生の頃、「卒業したら、経済学の知識を活かせる仕事に就きたいな」と考えていたのですが、計量経済学のゼミで勉強していると、リアルな経済活動を捉えることから遠ざかっているような気がしましたし、その後に産業分析や経済予測に取り組んで、エコノミストを名乗ることにトキメキを感じられませんでした。

そんな折、出席しなくても単位がもらえることで有名だった開発経済学の講義に顔を出してみたら、

自分の目指したい場所が2秒で見つかりました。途上国の開発課題を分析するだけではなく、処方箋としてのプログラムや政策の提供も目指していく、定量分析を採用しながらもフィールドでの活動も重視する、そんな欲張りな開発経済学に没入していききました。

技術とデザインで 途上国を彩る

大学院に進学してからは、開発経済学の中でも専門領域を決めるのに、また時間がかかりました。色々悩んでいたところ、修了間際の現地調査でタイ工業省の方に「お前、タイの自動車産業とかやれよ、仕事くるよ」と言われたことで、工業化支援・産業開発の専門家になろうと思いました。

その後は東南アジアの自動車産業を研究対象にしていきましたが、生産現場から製品開発へ、そして商品企画へと関心が移り変わっていく中で、研究領域が経済学＋経営学＋エンジニアリング＋デザイン学にまで拡張されていきました。国際協力の専門家は、経済、土木、保健など、各々の専門知識を用いて開発課題の解消を目指しますが、デザインのインプットを通じて貢献するのが現在の私のスタイルです。

「デザインは、『整える』ことが仕事ですから、生産現場を効率的にしたリ、ビジネスモデルを安定化させたりすることができます。もちろん、

スタイリングを整えることで、商品の価値を高めたり、人々を楽しんだりにさせたりすることもできます。具体的には、途上国の生活向上につながる製品をひたすら開発すること（ミャンマー）、食品や工芸品をパッケージデザインなどでアップグレードすること（ベトナム）、現地のデザイン人材を育成すること（ガーナ）、などが研究テーマです。



消費者から生産者へ

ゼミの活動内容

黒川研究室は、10年以上に渡って「技術とデザインで途上国を彩る」という明確なブランドビジョンを発信しています。このビジョンを達成するために、演習の時間には開発経済学、国際ビジネス、デザイン学の基礎理論を勉強し、それ以外の時間にはプロジェクトを推進しています。

現在進行中のプロジェクトは、次の3つです。1つは、調理中の煙害を低減するための無煙クッキングストーブの開発です。現地のニーズを吸収しながら試作品を造り、ミャンマーにあるプロジェクトサイトで繰り返し実証実験に取り組んでいます。もう1つは、ヒ素を除去できる浄水器の開発です。途上国向けの浄水器はいくらでもありますが、業界最安値を目指しています。その他、国内外をフィールドにした「地域資源フル活用プロジェクト」があります。これは、地域の特産品にデザインをインプットして観光資源として育てる活動です。ベトナムの工芸品のアップグレードに取り組んでいます。



書棚から
この一冊

高村薫(1997)
『リヴィエラを撃て』
新潮文庫

人間の極限部分を削り出すように描いている高村文学を通じて、物事の背景や人の心の機微に思い至る人を目指しましょう。

担当教員の研究

中心市街地・商店街の活性化

私は「国や地方自治体が地域社会の問題解決をする仕組み」について研究しています。それに加えて、近年ではコミュニティ(共同体、例えば自治会や町内会など)の役割を重視しています。研究分野としては政治学、公共政策学ですが、最近では地域政策、公共政策の研究者と自己規定しています。

地域政策研究における古典的な課題として「中心市街地・商店街の活性化」があります。これについては解決がなされないまま50年以上が経つてしまい、今なお課題であり続けています。地域社会の問題解決はそのくらい難しいのです。これま

地域社会の問題解決を目指して

教員の情報

職位 教授
専門分野 地域政策、公共政策
担当科目 地域政策論、公共政策論
演習



空き家問題

での失敗を見つめなおし、解決策を模索し、未来の地域社会をデザインするというのが、地域政策を研究することだと考えています。

空き家は近年大きな社会的問題となっています。家は最も重要な生活基盤であるとはいえ市民の個人的問題なのですが、安全な社会の実現のためには自己責任で済ますことはできない社会的問題でもあります。したがって人口増加期には住宅不足が発生し、政府はその対応に追われます。一方人口減少期には住宅過剰となり、空き家の問題に対して政府があたふたしなくてはなりません。

わが国においては、住宅不足と住宅過剰の変化が、わずか30〜40年の間に訪れたので、対応に大変苦慮しています。そしてその苦悩は地方自治体、地域社会に重くのしかかっています。この問題は私にとってここ数年の大きな研究課題であり、今後大きなテーマであり続けることでしょう。

政府の使い手としての市民

国・地方自治体などの政府公共部門、町内会・自治会などのコミュニティをいかに機能させるか、市民がこれらのシステムをいかに上手に使いこなすか、研究と実践を通じてこれらのことを追究するのが、私が現在研究者として自らに課している課題です。

「一期一会」の精神で。人生は一回限ります。

ゼミの活動内容

佐藤公俊ゼミは、問題解決能力の向上と社会に出て仕事ができる素養を身に付けることを目的とし、地域政策的な課題を対象として、教室内外で活動を進めることを基本としています。

- ① グループ研究…2、3年生はグループ研究を行い、毎回プレゼンテーションを行います。フィードバック、インタビュー、アンケートなどを行うことが多いです。
 - ② プレゼンテーション…全学年とも研究等を格好良く発表する手法を研究しています。
 - ③ ディスカッション…グループ・ディスカッションを定期的に行います。就活を意識しています。
 - ④ 卒業論文…3年生の時に培った能力を基礎に、4年生時に頑張ります。
 - ⑤ ゼミ合宿等の交流…学年をまたいだ交流を大切にしています。
- 基本的にはアウトプット中心のゼミで、インプットは各自で行っています。せっかくゼミ生が集まっているのだから、みなさん、どんなアウトプットして(しゃべって)、が基本コンセプトです。

F・ハイエック
『隷従への道』
東京創元社

1944年に出版された古典ですが、今の時代に読む価値は極めて大きいです。全体主義に対する危機感は、現代的に重要なテーマです。



佐藤公俊研究室

担当教員の研究

これまで一貫して、自治体行政や自治体政策を対象に、行政学の見地から社会科学のアプローチに基づく実証研究を進めてきました。他大学の研究者との共同研究にも積極的に参加していますので、住民自治とまちづくり、SDGsと行政計画、住民参加における対話の効果など研究テーマは多岐にわたります。最近特に力を入れている研究テーマは、EBPMとロジックモデルです。

エビデンスに基づく政策立案

EBPMは、Evidence-Based Policy Makingの略称であり、「エビデンスに基づく政策立案」と訳されます。EBPMでは個人的な経験や勘、固定観念や先入観、エピソードや慣例などにとらわれるのではなく、データや科学的な証拠に基づいて政策決定を行うとするものです。EBPMは英国や米国が先行していますが、近年、わが国の政府や自治体においても推進されています。

データによる政策効果の検証

それでは、EBPMをどのように進めていけばよいのでしょうか。「中心市街地の活性化」という施策を例にとって考えてみましょう。まずは、「この施策が「現在、どのような状態にあるのか」「将来、どのような状態を目指すのか」を明らかにしておく必要があります。その上でそれらの状態を測定するためのアウトカム指標（成果を測る尺度）の設

定とデータの収集・調査が不可欠です。さらに、ある事業を行うことによって「中心市街地の活性化」を図ろうとする場合、その事業の実施によってどの程度の効果があったのかをデータで検証します。その結果から得られたエビデンスをもとに政策の立案や評価を行います。

EBPMの推進はロジックモデルの構築から

このとき、「その事業を実施した結果、中心市街地が活性化されている」と言う因果関係に関する「仮説」が存在するはずです。これはどのような政策にも当てはまります。政策には、資源の投入（インプット）から最終的な成果（アウトカム）が発現するまでの因果関係、言い換えれば、政策の目的とその実現手段との間の論理的関係が想定されています。これをわかりやすく図式化・可視化したものを「ロジックモデル」（Logic Model）といいます。EBPMの前提として、政策のロジックモデルを明らかにしておくことが大切です。そのため自治体政策のロジックモデルの研究を進めています。



自治体職員や公務員となり、
地域政策やまちづくりの第一線で
活躍したい人は、
ぜひ門を叩いてみてください。

ゼミの活動内容

人口減少、少子・高齢化、住民の価値観の多様化、財政危機の深刻化が進むなか、行政は住民に対する説明責任を果たしながら、サービスの効率化や成果重視の経営が求められるています。それでは、行政はいかにして住民ニーズに対応した政策を立案し実行すればよいのでしょうか。また行政はどのように民間セクターと協働しながら、様々な公共的問題を解決し、持続可能なまちづくりを行えばよいのでしょうか。こうした諸課題に対して、「理論」と「実践」の両面からアプローチしていきます。

ゼミでは、行政学、地方自治、公共政策の理論のみならず、実践にもとづく生きた研究を目指しています。文献調査をもとにしたディスカッションはもちろん、自治体を対象にアンケート調査を行ったり、インタビュー調査に出かけたりします。そして、一人ひとりがリサーチクエスションと仮説を設定し、調査研究を進め、卒業論文を完成させます。私自身が国や自治体の委員・アドバイザーとして政策過程に積極的に参画しており、現場での観察から得た知見なども教育や研究に生かしています。

佐藤徹
研究室

教員の情報

職位 教授

専門分野 行政学、地方自治論
公共政策論

担当科目 行政学、政策科学
政策評価論、演習



佐藤徹編著(2021)『エビデンスに基づく自治体政策入門』公職研

近年、わが国や自治体において、エビデンスに基づく政策立案(Evidence-Based Policy Making:EBPM)が推進されています。また、コロナ禍で、あらためて「エビデンス」とは何かが問われています。本書は、自治体におけるEBPMの入門書としてまとめ上げたものです。公共政策や地方自治を学ぶ大学生にも是非読んでほしいと思います。

担当教員の研究

東京一極集中の是正に向けた
多拠点居住の可能性に関する
研究

多拠点居住は、東京一極集中の是正や空き家住宅の有効活用、知識創造の新たな装置として可能性を秘めた新しいライフスタイルといえます。どのような人物が、どのような目的で、どのように移動しながら、多拠点居住を成立させているのか、多拠点居住の特性を理解することが、この研究の目的です。特性が理解できれば、都市問題の解決に向けた糸口になるだけではなく、都心と郊外、都市と農村、中央と地方という対置されてきた空間概念に、大幅な修正を迫ることになるでしょう。

郊外住宅地における高齢化と
空き家対策に関する研究

2010年以降、日本は人口減少・少子高齢化社会に移行しました。建設から半世紀が経過したニュータウンの多くでは、住民の高齢化と建物の老朽化という二つの「老い」に直面しています。住民の高齢化を抑止するためには、世代交代を速やかに進める必要があります。しかし、次世代の住まい手とされる団塊ジュニア世代は、不安定なライフコースを辿ってきており、団塊世代が築き上げた社会経済的に均質な郊外住宅地を継承できない可能性が考えられます。この研究では、人口が維持される住宅地と維持されない住宅地を比較しながら、郊外

住宅地の選別・淘汰のメカニズムを明らかにします。

最寄駅徒歩圏居住と中古住宅
の役割に関する研究

日本の住宅市場は主に新築住宅で構成されており、中古住宅の普及が欧米諸国よりも立ち遅れています。ただし、中古住宅は新築住宅よりも物件の種類が豊富なため、幅広い所得層に取得機会を与えるなど、一般消費者がニーズに合った住宅を選択しやすいメリットがあります。たとえば、身体機能の弱化を予見した高齢世帯が、最寄駅非徒歩圏に所有する戸建住宅を処分して、最寄駅徒歩圏の中古集合住宅へ住み替えるケースは、中古住宅の新たな需要を喚起する動向として注目されます。この研究では、中古住宅の普及促進に向けた都市のあり方を考えていきます。

教員の情報

職位
教授
専門分野
都市地理学、経済地理学
地理情報システム
担当科目
地域政策学入門、都市地理学
現代の都市問題、地理学
演習

偶然の出会いがもたらす
新たな発見(serendipity)を探してみましょう！

ゼミの活動内容

2年次の基礎演習では、まず現代の都市問題に関する文献を用いて輪読をします。文献に書かれている内容を理解することはもちろん、著者の主張が正しいのか批判的に読み込むことで、自分自身の考えや新しい発想力を養います。つぎに地理情報システム(GIS)とExcelを使ってさまざまな地図を作成し、基本的な地域分析の手法を学びます。

3年次の演習Ⅰでは、三扇祭のプレゼン大会に向けてグループ研究に取り組みます。2年次で培ったGISを駆使して、これまで高崎市の土地利用変化や郊外住宅地の高齢化など、地域分析に取り組みました。3年次の後半から4年次の演習Ⅱにかけては、卒業論文の執筆に向けた準備を進めます。

なお、3年次の夏休みには海外巡検を実施します。国内外の都市を比較するために、シンガポール、香港、高雄などを訪れました。基礎演習でどこに、なにを調べてくるのか、海外巡検の企画・立案もおこないますので、ぜひ自分が訪れてみたい国や地域を考えておきましょう。

箸本健二・武者忠彦編
(2021)

『空き不動産問題から考える地方
都市再生』

ナカニシヤ出版

人口減少・少子高齢化に直面する日本の地方都市。いかにして活力を与えていけば、地域の事例からそのヒントが詳しく述べられています。



佐藤英人研究室

担当教員の研究

立憲事実の変遷の
合憲性判断について

最近、私が興味を持って取り組んでいるテーマは、社会状況が変化しているにもかかわらず法律が改正されないことに対して裁判所はどのように評価し、判断しているかということです。

法律は社会的、経済的、政治的な背景などを考慮して立法機関である国会で制定されます。法律を制定する際に法律の基礎となつて合理性を支える社会的、経済的、政治的事実（これらの事実には科学的事実も含まれます）を立憲事実といえます。裁判所が立憲事実を用いて、問題となつた法律が憲法に適合しているか判断する手法は以前から行われていました。ですが法律の制定から時間が経つと、法律を制定したときの社会状況が異なつてくること（立憲事実と法律の乖離）が起こることがあります。そのため裁判所は法律の制定時から社会状況などが変化したこと、つまり立憲事実と法律が乖離したことを理由として、その法律が憲法に反するものと判断することがあります。例えば、在外邦人選挙権訴訟（最大判平成17・9・14）や国籍法違憲判決（最大判平成20・6・4）、婚外子相続分違憲決定（最大決平成25・9・4）などで、この手法を用いて問題となつた法律を違憲と判断しています。

では立憲事実と法律の乖離はどの程度になれば違憲と判断される

のでしょうか。裁判所はどのようにして立憲事実を見出し、それを違憲であると認定するのか、またいつの時点で立憲事実と法律が乖離したと認定するか、などについての基準は明らかではありません。このため立憲事実の変遷を認めた違憲判断は判断理由が不明確である、場当たり的な判断であるとして批判されています。立憲事実が乖離したことを裁判所が判断する枠組みや、立憲事実の性質および役割についての検討が必要な領域であるといえます。

また注意深く判決をみてみると、裁判所は立憲事実が乖離しつつある状態を指摘するといった立憲事実の評価を通じて補完的に法改正を促す、判決を通じて法改正の猶予を与えるといった作用を行なっているのではないかと考えられる部分もあり、この点も興味深いテーマです。

教員の情報

職位
教授
専門分野
憲法学（日本、アメリカ）
担当科目
法学、憲法、比較憲法
演習



鈴木陽子
研究室

ゼミの活動内容

2年次の基礎ゼミでは、法律に関連する文献を読むことと法的思考を身につけてもらうことを目標としています。判決文を読み、模擬裁判のようなディスカッションをしています。双方の弁護士、裁判官のチームを作り、弁論や判決を行なっています。

3年次ではグループごとにテーマについての報告や判例研究を行なっています。どのような判例を扱うかについては、いくつか候補を挙げて自分たちで選んでもらっています。

4年次はこれまでの学びのなかから興味を持ったテーマを選定し、卒業論文の執筆をします。卒業論文のテーマについては、担当教員としては憲法に関するものであれば嬉しいなと思いますし、ゼミ生の選んだテーマは様々ですがどこかで憲法に関連したテーマを選んでいきます。



安念 潤司、小山 剛、青井 未帆、
穴戸 常寿、山本 龍彦(2014)
『憲法を学ぶための基礎知識
論点 日本国憲法〔第二版〕』
東京法令出版

憲法に関連する本としては中高の教科書のような体裁で図版も多く、一つの項目が見開きで書かれていて気軽に読み始められると思います。

自分で考えて出した答えなら、
通説でなくてもいいと思います。

担当教員の研究

都市とまちを
網羅的に扱う領域

私は民間企業等を経てから行政機関にて、都市計画実務と道路行政実務を長年実践してきました。民間・行政・大学と民官学を渡り歩き、法律・制度・事業の一連の仕組みを実践してきた経験に基づき、理論と実践の融合を目指しています。

私の専門分野は大きく2つ、公共政策領域とまちづくり領域になります。都市政策や都市計画をはじめとする「行政施策」と、地域経営や市民参加などの「地域マネジメント」という、行政側でもあり市民側でもある、つまりは行政と市民の間に立つための領域と捉えることもできます。そのため、研究・実務共に最も意欲的に取り組んだ内容は、福祉のまちづくり（ユニバーサルデザインを目指した取り組み、手段としてバリアフリーや高齢者の健康など）と住民合意の為にプロセスデザイン（合意形成理論）になります。このような実践領域は、海外を中心に学問としても成立しており、地域政策に不可欠な要素となります。

人・移動・空間をデザインする
方法を多角的に分析・評価

人間の生活環境と経済活動を考え、「住みよい都市の計画理論、バリアフリーやユニバーサルデザイン」の理論と実践、市民参加の方法



論とコミュニケーションデザインの実践、空き家・空き地を増やさないためのコミュニケーションデザイン」をテーマに、人・移動・空間をデザインする方法を研究しています。多様性と相違性を取り上げる領域でもあるため、様々な分野の先生方と学際的な研究を行ったり、司法書士の先生方との連携による「空き家・空地対策」に関する活動を展開したり、都市政策を専門とするコンサルタントとの「計画理論づくりの研究」や、「集約・コンパクト化する都市と交通」の課題に取り組んでいます。また、地域へ入り込み、住民の皆さんと行政を繋ぎコーディネートする役割や、社会福祉協議会と地域が連携するような活動も、地域デザインの実践として取り組んでおり、住民やステークホルダーの合意形成を目指すための活動・研究を行なっています。

長野博一研究室

都市という『空間』を私と一緒に
デザインしてみませんか？

ゼミの活動内容

自分の人生を振り返りますと、民間企業・行政官とキャリアを積み、その後大学へ移籍し現在に至ります。長野研究室では、多様性を受け入れ、物事をあらゆる角度から透視し、現場では柔軟に冷静に対応できる、このスキルを得てもらうためにも、課題解決方法の発想力・着想力を養うグループワークや、「問い」と「プロセス」をデザインするゼミを適宜実施します。現在、「2050年の社会をデザインする」と題した熟議をグループで実施しています。各自が人間として社会性を伸ばすことを目標に、社会人基礎力をしっかりと身につけてもらいます。さらに、地域へ入り込み、自分の目で見る・考える習慣を持つために、様々な地域でのフィールドワークを実施します。都市政策への参加（協議会や懇談会の聴講や、まちづくりへの参加（ワークショップや地域づくりの現場）を通じて、ファシリテーションスキルをはじめ、各種調査・分析の方法、まとめるスキル、プレゼン能力等を徹底的に鍛えます。



ジェイン・ジェイコブズ(著者)
サミュエル・ジップ(編者)
ネイサン・シュテリング(編者)
宮崎洋司(訳者)
(2018/12/08)

『ジェイン・ジェイコブズ都市論集
—都市の計画・経済論とその思想—』

鹿島出版会

ジェイコブズの思想と理念は、現在いままに起きている都市課題を言い当てている内容です。しかもかなり以前から。ぜひ手にとってほしい一冊です。



教員の情報

職位 准教授

専門分野 都市政策、都市計画、地域デザイン、ユニバーサルデザイン、交通政策

担当科目 都市政策論、都市計画学、都市経営論、都市再開発論、初年次ゼミ、演習

担当教員の研究

かけがえのないもの、それは「自由」

私たちにあって「自由」はかけがえのないものです。昨今経験した感染症のパンデミックは、このことを深く実感させてくれました。他国の政治情勢に関する近年の報道からも、その大切さが伝わってきます。

今日の日本では、表現や宗教など個人的自由の尊重は誰もが認めるところだと思えます。しかし、経済的自由の尊重については意見が大きくわかれるようです。平等な社会の実現のためには、積極的な政府介入が必要だと考える人もいます。一方、政府が強大な権力をもつことを危惧し、その役割は最小限にとどめておくべきだと考える人もいます。

公共選挙論とはなにか？

さて、私はどうかというと、個人的自由はもとより経済的自由も尊重されるべき。政府の本来の役割は国防や外交、司法、道路等に加え、本当に支援を必要としている人びとへの再分配などだと考えています。政治経済学の一分野に整理される「公共選挙論」が専門です。

何をどのくらい生産するかまた消費するかは、個々人に任せただけが各々にとって望ましい選択となります。ただし、社会にはどうしても、共同でなさなければならぬ行為があるのも事実です。公共選挙論では、共同行為には人びとのあいだ

の利害対立がつきまとうので、必要なときはあらかじめ定められた民主的手続きに従って決めましょうと主張します。ですが、その民主的手続きも問題を抱えていることがわかっていきます。

公共選挙論の視点を踏まえた地域政策研究

このように、公共選挙論は社会システムのあるあり方の基本に関する考え方ゆえ、その研究分野は多岐にわたります。政府のあり方を踏まえた国および地方自治体の財政、もちろん財政と表裏一体の関係にある公共政策、民主主義の根幹に関わる選挙制度、政策決定に影響する官僚制や行政組織などはいずれも研究対象です。

私も地域政策学部にお世話になってだいぶ時間が経ちました。近年は、公共選挙論の視点を踏まえた地域政策（地理的にみて一定範囲に便益をもたらす公共政策の研究）に取り組んでいます。



森村進(2001)
『自由はどこまで可能か
—リバタリアニズム入門—』
講談社現代新書

日本の財政は肥大化の一步をたどっています。本書は、民間部門に対して、公共部門のなすべき仕事について考えさせてくれます。地域政策を学ぶなら最初に手にしてほしい一冊です。

食事も遊びもみんなで行けたらいいですね！

ゼミの活動内容

これからの時代、というよりいつの時代も、将来の情勢は予測不可能なものです。一方、近年におけるITやAI、ロボット技術の飛躍的進歩は私たちのライフスタイルを大きく変化させつつあります。卒業後も社会においてたくましく生きていける力こそ、みなさんが大学で身につけるべき能力ではないでしょうか。

このような問題意識から本研究室では、考え抜く力をはじめ、情報リテラシー、デザイン力、プレゼン力などの能力向上に資するさまざまな

まな教育プログラムを用意しています。どのゼミにも負けないコンピュータ活用能力の習得を目標に、エクセルを中心としてワードやパワーポイントの操作実習をします。研究過程においては、深い思考力を身に付けられるよう、学生同士または学生・教員間のやりとり時間に時間をかけています。研究ボスターの作成を通じて、要点をまとめる力やデザイン力の鍛錬も行っています。また、学内外の発表会への参加も促して、井の中の蛙とならないよう指導しています。

中村匡克
研究室



教員の情報

職位 教授

専門分野 公共選挙、財政・地方財政、公共政策

担当科目 財政学、地方財政論、ミクロ経済学、演習

担当教員の研究

哲学・倫理学的な思考スキルは ビジネスの分野でも現在必要とされています。

ジョン・ロールズの 道徳・政治哲学研究

英語圏の倫理学および社会哲学が私の専門分野であり、とりわけ、ジョン・ロールズ（1921-2002）というアメリカの道徳・政治哲学者の研究を長年続けてきました。ロールズは「社会正義とは何か」という一つのテーマだけを考察し続けた特異な哲学者であり、功利主義的な政策（最大多数の最大幸福）一辺倒であったこれまでの社会の在り方に対して、それとは異なる望ましい社会の姿を提示しています。すなわち、全ての人がひとに対して市民的・政治的な自由と権利を平等に保障すること、ならびに社会的な機会の公正な平等を確保し、許容できる社会格差の規準を設けること、これらの原則を諸制度（法、政治、経済制度）において実現している社会が「公正な社会」であるとロールズは提唱しています。ロールズの道徳・政治哲学に対しては、その名著である『正義論』（1971）の発表以来、多くの哲学者から様々な批判がありますが、現代社会におけるその重要性は未だ色褪せてはいません。ロールズの哲学を批判的に吟味し、その意義と可能性を現代日本社会の文脈において考察しています。

倫理学における 非理想理論の構築

現在の研究課題は「倫理学における非理想理論の構築」です。近年、「理想理論・非理想理論」という主題がとりわけ政治哲学において、高い関心を呼んでいます。本研究では、他者が道徳的義務に従っておらず、そうした義務を履行させるための正しい制度も存在しないという望ましくない状況、すなわち非理想的な状況において私たちは何を為すべきかについて考察しています。この問題は倫理学におけるその重要性にも関わらず、これまで十分注目されてはいませんでした。他の人々が自身の道徳的義務を果たしていない——すなわち、不遵守の——場合においても、私たちは自らの道徳的義務を果たすべきであるのでしようか。従来の倫理理論が非理想的な状況に対していかなる応答をしているのかを批判的に吟味することを通じて、倫理学における非理想理論の構築に取り組んでいます。この研究は公共政策やグローバル・ジャスティスにおける諸問題を考察する上での基礎理論を構築することで、これらの分野にも貢献できるものと考えています。

ゼミの活動内容

ゼミでは、様々な哲学・倫理学文献をゼミ生と共に読み解き、その中で論じられている問題について熟議します。中心的なテーマは「コミュニティにおける正義」であり、このテーマに関連する諸問題、マクロには国家間の正義であるグローバル・ジャスティス（途上国への援助、移民の受け入れ、国際司法、人道的介入）や一国内での財の再分配の問題、またミクロには医療資源の適正な分配や雇用の確保、所得の無条件の最低保障や教育に対する平等の機会といった問題を検討します。こうした「正義」にまつわる諸問題を、現代の哲学者（ピーター・シンガー、ジョナサン・ウルフ、ジョン・ロールズ等）の文献を読解することを通じて、またメディアやマスコミで取り上げられている社会的な事象を踏まえながら考察します。

予定としては、2・3年次では上記の問題について論じている文献を輪読し、3年次年末までには卒業論文のテーマを各自選択する。そして4年次前期には各自選択したテーマに基づいて研究発表してもらい、後期には卒業論文の完成を目指します。さらに長期休暇中には学外授業として博物館や美術館等の見学、またゼミ生からの希望があればゼミ合宿なども行います。本を読み、映画を見たりしながら、哲学的、社会的な問題について考え、議論することが好きな学生の参加を期待しています。

教員の情報

職位
教授

専門分野

倫理学、社会哲学
応用哲学、死生学

担当科目

公共哲学、倫理学
法哲学、演習

ジョン・ロールズ
(神島裕子・福岡聡訳)
『政治的リベラリズム(増補版)』
筑摩書房 2022年



私が長年研究してきたジョン・ロールズの第二の名著であり、「包括的なリベラリズム」から「政治的リベラリズム」へと自らの〈公正としての正義〉という正義構想を発展的に修正することを試みた書です。価値の多元状態にある現代社会において市民の間での正義構想への合意、そして社会の安定性はどのようにすれば獲得・維持することができるのかを本書でロールズは探求しています。



福岡聡研究室

担当教員の研究

地方議会会議録の内容分析

国会にしても、地方議会にしても、オンデマンド動画やライブ中継が視聴できるようになってきました。政治世界のデジタル化の進展は、遠かった政治や議会を身近なもの、アクセスしやすいものに変えてくれています。

行政機関では、好んで組織間の相互参照が行われることが普通ですが、地方議会はどちらかというと「独特の世界観」を維持しようとする傾向があるようです。皆さんは、トランプやUNOなどのカード・ゲームで、知っているルールが友達と違って困惑したことはありませんでしたか。地方議会は、まさにローカル・ルールの巣窟のようなところなんです。しかも、当人たちにとってみれば、長く親しんできたそのルールを少しもおかしいと思わないわけです。研究では、そうした地方議会の「多様性」をテキスト・マイニングの手法を使って、「一般化」したいと思っています。

フランス政治研究

研究者としての出発点は「現代フランス政治」でした。90年代の政治改革期に、研究室内でフランス選挙研究に取り組んでいる大学院生がいなかったので、入学早々抜擢されました。研究計画では、英仏文化の交わる「カナダ地域研究」をやろうと思っていたので正直面喰いしましたが、明治以来、日本が参考にして

きたのは、やはりヨーロッパ大陸の主要国だろうと納得し、方針転換しました。所属する研究室の研究手法は、計量分析的なものが多かったのですが、最新の制度紹介に加えて、選挙や政治資金のデータ分析することが自然に増えていきました。

フランスでも、「フランス的例外」という言葉があります。複数の政治体制を客観的に比較するのは極めて難しく、「対象を知らなければ知るほどかえって単純化できなくなる」というジレンマがあります。それは自分のことを客観視できないことと似ているかもしれませんが、日本を知るために、もっとフランスを知る、フランスを知るために、もっと日本を知るように常に心がけています。

自ら考え、みんなと議論し、
変わっていきこう！



ゼミの活動内容

政治学、主権者教育、選挙啓発のゼミです。主権者教育とは、日本的な概念であり、諸外国では「シティズンシップ（市民性教育）」などと呼ばれています。私たちが社会に向き合い、どのように生きていけば良いのかは、常に哲学的な問いです。

日本では、政治教育が教育現場から切り離され、子供たちは政治に十分に向き合えないまま、大人になってしまふことが多いようです。「大学生個人として就活を首尾よく切り抜ける」ことが最大の関心事で、実りのある大学生活を送れるのでしょうか。時には他者との議論も必要ではありませんか。

ゼミでは、みんなで考え、議論し、行動するという民主主義社会において当たり前の行為を日々追求します。これは主権者教育の実践そのものです。全国43団体が参加する「若者選挙ネットワーク」や県内17大学等が参加する「主権者教育を推進する群馬県大学コンソーシアム」に参画し、積極的に全国の若者をリードしていきます。

増田正研究室



教員の情報

職位 教授

専門分野 政治学、主権者教育、投票行動論

担当科目 政治学、地方政治論、現代政治論、演習



ペーテル・エールディ
高見典和訳(2020)

『ランキング 私たちはなぜ
順位が気になるのか?』
日本評論社

巷にあふれるランキングは、客観的に見えるものもありますが、どれも主観性を排除できません。「地域ブランドランキング」が世間を毎年のように騒がせていますが、あれは業者の販売ビジネスです。そうとはわかっていても、順位や格付けを必要以上に気にしてしまうあなた、ぜひこの本を読んで、ランキングの本質について考えてみてはいかがでしょうか。

担当教員の研究

日本経済の成長と農業の適応

日本の農業構造の中で最も構造再編が進んだ畜産に焦点をあてて、これまでの日本経済の成長に対する適応プロセスについて検証を行ってきました。畜産経営においては構造再編が進展した要因としては、戦後の食料消費の拡大のもと農産物価格政策が展開したこと、飼料生産を海外に依存することで土地利用からの脱却がはかられたこと、群管理技術が確立したこと、等が挙げられます。

また、構造再編の最先端に形成されている大規模農家、大規模法人経営では、高い技術水準・生産性に支えられ、収益・成長の源泉が確保され、財務内容の安定性も増していました。そこでの事業規模（資本金、従業員数、売上高等）は、農家の枠組みを大きく超えて地域の中小企業の水準にまで到達しています。以上の点を、現在、口蹄疫の発生で非常に大きな被害を受けている宮崎県川南町や都城市の実態分析等からも行ってきました。

土地利用型農業、水田農業の再建

対照的に、日本の土地利用型農業、特に水田農業では、経済成長に伴う所得の上昇に農地の集積がはるかに及ばなかったため、「兼業化」というかたちで適応がはかられてきました。ただし、ある種、安定状態にあるかのようにみえた「兼業

農業」は「昭和・一桁世代」（2010年ですべて75歳以上）のリタイアともあいまって急速にその持続性を喪失させつつあります。そこで、異業種、特に、地域の建設業からの土地利用型農業、水田農業への参入が、その再建への一歩を導くのか、否かについても全国各地の実態から解明を進めています。その際、食用米の恒常的生産過剰と飼料穀物の自給基盤の未確保といった隘路を切り拓くためにも食用米の飼料化といった点に着目しながら研究を進めています。



教員の情報

職位

准教授

専門分野

農政学

農業構造問題

担当科目

農業経済学

農業・農村政策論

フードシステム論

演習

学問のフロンティアの拡大。
全く思うようにはいきませんし、しんどいですが、
とてもとてもわくわくすることではあります。

宮田剛志研究室

ゼミの活動内容

近代国家の形成以来、農業は政策と強い関係を持ち続けています。資本主義国ではもちろん、旧社会主義国でもそうでした。それは何故でしょうか？ また、20世紀末から、WTO体制の発足、食料・農業分野でのグローバル化の進展、農村地域政策が刷新されています。それは何故でしょうか？ 当研究室では、こうした現代社会の根源的な問題と関わる課題の解明を進めています。経営学と経済学・社会学等の関連する学問の研究方法を用いながら、同時に地域ごとに様々な「顔」を持つ農業構造や地域社会構造、食料消費の実態を的確に把握するために、濃密なフィールドワークを大切にします。ひとつの農家、ひとつのムラの現実から、世界の動きを見ることに挑戦しています。そして、フィールドワークに基づいた研究とそれを土台にした理論的研究を進めており、国内問題に限らず国際的な視野（農業経営の国際比較や先進国農政の刷新、開発途上国農村開発への貢献等々）を持ち、また、実践性（問題解決型のアプローチやケースメソッドの導入）を意識した研究も進めています。

食料・農業・農村の実態に対する理解を基礎に、この学問分野のフロンティアの拡大と一緒に目指していきたいませんか？ 当研究室の motto は warm heart cool head です。

担当教員の研究

航空宇宙産業の研究

私は航空宇宙産業の研究に力を入れています。航空宇宙産業とは「官民に関わらず飛行機、ロケット、及び人工衛星を製造、運用する産業」のことです。私は特に民間航空機産業の研究を進めてきました。

民間航空機産業は寡占産業（市場を数社で占有）と呼ばれ、世界で民間航空機を製造できる主要メーカーが3社しかありません。民間航空機メーカーはグローバル・サプライチェーン（世界的な供給連鎖）によって、世界から最適な部品調達を行っています。

民間航空機は、1機当たり100万点以上の部品で作られており、この部品は世界の企業、中でも中小企業（サプライヤー）によって生産されている点が特徴です。国内にも民間航空機部品を生産している中小企業が多数あり、新規受注や受注拡大を目指してきました。このような航空宇宙産業の構造を説明することが研究テーマの一つです。

周辺地域における
先端産業の立地研究

もう一つの研究テーマは、先端産業の立地が空間的に周辺化していく要因の解明です。例えば先端産業である民間航空機産業では、安全性を確保するために、難しい加工技術と厳しい品質管理が求められます。



教員の情報

職位
教授
専門分野
経済地理学
機械産業論
中小企業論
担当科目
産業政策論
中小企業論
産業立地論
演習

それゆえ、1990年代まではアメリカ、EU、日本の大都市など、技術力のある地域だけで民間航空機部品が生産されました。しかし、2000年頃から発展途上国や、日本の地方圏（周辺地域）でも部品の生産が行われています。その要因として世界的な受注競争によるコストダウン（値下げ）と、工作機械の自動化、高度化が挙げられます。

民間航空機の部品は、受注競争のために価格が安く、先進国や大都市の生産では採算が合わなくなっています。そのため日本でも周辺地域へ民間航空機部品のサプライヤーが立地するようになってきました。このことは、企業の利益が出にくく、地域経済がグローバル競争に左右されるという課題を内在させています。かかる状況を踏まえ、周辺地域へ先端産業の立地が進む要因と影響を考えています。

自らの常識を疑い、物事を批判的に考えてみよう！

ゼミの活動内容

当ゼミは2021年度から開講され、25人で活動しています。研究テーマは、「地域の産業振興と地域活性化」です。ゼミ（基礎演習）の前半では地域産業論を扱ったテキストを輪読し、地域の産業振興や活性化の理解を深めました。後半では行政機関や中小企業へのヒヤリング調査の準備を進めるとともに、春休みには、群馬県庁地域企業支援課や県内外へのフィールドワークを実施します。

当ゼミの特徴は、学外活動が盛んなことです。2021年度は、ゼミの有志3人で高崎信用金庫主催たかしんビジネスプラン・コンテスト2021に応募し、最優秀賞を受賞しました。さらに3年生からは卒業論文を準備することにも、サブゼミを開講し、山形県のビジネスコンテストへの応募や、企業と連携したプロジェクトをすることで、地域産業振興の一端を実践から学びます。

当ゼミでは、ゼミ学修を通じて、高崎市や県内外で公務員・金融機関等で産業活性化に貢献できる人材になれるよう、支援していきます。



宮崎雅人(2021)

『地域衰退』

岩波書店(岩波新書)

本書は、地域経済衰退の要因として基盤産業を位置づけています。基盤産業は、域外から稼ぐ産業です。この基盤産業の衰退が地域経済の衰退に結び付くことを、事例を通して明らかにしています。

担当教員の研究

四年間は短いものです。
全力でやりたいことに挑戦して下さい。

EUをめぐる国際関係

これまでヨーロッパの国際関係を主に研究してきました。「地域」の問題を多面的に考える上で、ヨーロッパはとても興味深い研究対象です。国民国家間で戦争を繰り返す、凋落したヨーロッパは、第二次世界大戦後、わずか六カ国でヨーロッパ統合の動きを開始し、今や二七カ国からなるEU(欧州連合)を生み出しました。その結果、政策の立案、決定、執行が地方や国単位で行われる分野もあれば、EUレベルで行われる分野も増えています。統合の深化に伴い、市民といわゆるエリートとの間の分断が進み、それが国民投票などを通して表面化することもあります。EUをめぐる国民投票は研究テーマの一つです。

北欧諸国の政治・外交

ヨーロッパの中でも北に位置する北欧諸国(デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン)に惹かれました。小さな国々にもかかわらず、福祉国家として国内的に安定した社会を築き上げるとともに、国連などで活発な

外交を展開して大きな存在感を示していることに興味をもちました。実際に北欧に行ってみるとわかりますが、国民の政治意識が極めて高く、透明性のある政治を実現する一方、有能な人材をベースにして生産性の高い経済、社会を運営しています。量よりも質を重視した国づくりを実感します。政治、外交という観点から、そうした国づくりの実態と課題を明らかにしたいと考えています。

日本・ヨーロッパ関係

そのほか、日本とヨーロッパとの関係についても関心をもっています。日本とヨーロッパは歴史的にいかなる関係を発展させ、お互いにかなるイメージをもってきたのでしょうか。これまで北欧諸国を事例に分析してきました。たとえば、日本とノルウェー賞との関係を歴史的に調べています。また、北欧諸国が映画を通して日本にいかに関係されてきたかについても考え、「虚像」と「実像」を意識する必要性を指摘しました(共編『映画のなかの「北欧」―その虚像と実像―』小島遊書房、2019年)。

ゼミの活動内容

ゼミでは、国際関係の理論、歴史を学び、それにより激動する国際関係を見極める「眼」を養ってもらいたいと考えています。そのため、まず国際関係論に関する概説書、専門書をできる限り多く輪読し、理論的な見方、歴史的な見方を学んでいきます。

さらに、時事的な国際問題にも関心を深めてもらうため、各自テーマ(たとえば、EU、米中関係、日本外交など)を一つ決め、新聞、インターネット等を利用して情報を集め、数カ月に一回のペースでそのテーマに関して最新の動向を報告してもらっています。自分から情報を積極的に集めて分析することにより、問題意識を深めることにつながっています。

そのほか、国際関係に関連する史料などを訪問するフィールドワークを実施しています。写真は、世界遺産の富岡製糸場を見学したときのものです。

吉武信彦
研究室

ジョージ・オーウェル(2009年)

『動物農場』岩波文庫(ほかにも多くの邦訳版あり)

ロシア革命後のソ連の歴史を踏まえ、動物たちが繰り広げる政治ドラマ。寝転んで読める小説ですが、「権力は腐敗する。絶対的権力は絶対に腐敗する」を実感できます。政治学のよい入門書です。



教員の情報

職位 教授

専門分野 国際関係論、北欧地域研究

担当科目 国際関係論、国際交流史、現代欧州の歴史と構造、演習

担当教員の研究

持続可能性のある「分散」

高崎経済大学は、中規模の都市に
いながらにして、また小規模の都市
や町村部の様子を身近に感じなが
ら、地域に関する高度な学習・研究
ができる数少ない大学の一つです。
1990年代以降、地域経済学の分
野では「集積」に関する理論・実証
研究が大幅に進み、その重要性が強
調されてきました。しかし、大都市
や特徴的な産業に特化した一部の
中小都市などを除き、多くの地方に
とって重要なものはある程度「分散」
していても優位性が失われず、将来
にわたって持続可能な生産を行う
ことが出来る産業です。私は客観的
なデータから今後地方の経済や雇
用を支えることができる産業を見
いだし、それを支援し伸ばしていく
方法を考えています。同時に、実践
的な研究プロジェクトなどにも参
加して分析を補強しています。

なお、私は東日本大震災時には福
島県内に居住していたことから、災
害に関する研究も続けていますが、
そちらも「分散」に関わる研究の一
種と位置付けています。

都市・地域経済学と
行動経済学

行動経済学は近年めざましい発
展を遂げていますが、その理論や成
果を都市・地域経済学の分野に応
用しようとする動きはあまり見ら
れません。都市・地域の事象を分析
するにあたって、住民の行動や満足

度、その背後にある選好・効用への
理解は非常に重要です。従来用いら
れてきた最もシンプルな前提を変
更すると、全く異なる結果や結論が
得られることもままあります。私は
参照点依存型効用など行動経済学
の分野で一般的になりつつある概
念を用いて、新しい視野から都市・
地域を分析しています。

過去と未来の調和する機能的
な都市構造

私の研究の原点は都市の耐久性
がもたらす、都市の混雑や空洞化問
題の考察です。まだ都市における人
口減少や空き家問題を研究する人
がほとんどいなかった90年代か
らずっと、伝統的な都市モデルなど
を応用してこの問題に取り組んで
きました。今後も、現実の変化を追
いつつライフワークとしてこの問
題に関わっていきたいと思っています。

教員の情報

職位
教授

専門分野
都市経済学
地域経済学
空間経済学

担当科目
都市経済学
地域経済論
経済学
地域政策学入門
演習



一度物事を深く調べてみる、考えてみると？

米本清
研究室



ゼミの活動内容

このゼミの特徴は自主性を尊重
する点と、バランスのとれた大学生
活を推奨する点です。卒業研究の
テーマは各ゼミ生の興味に応じて
ある程度自由に選べますので、自
ら問題意識を持ち積極的に学習・研
究を行う学生を歓迎します。一般授
業の積極的な履修や学内外のサー
クル・部活動、個人による主体的な
活動などを行いつつバランスのと
れた大学生活を送り、それらをゼミ
の学習・研究にも活かそうとする
学生を応援します。



J. V. Henderson(1985)
『Economic Theory and
the Cities (second edition)』
Academic Press.

昨今は理論に触れないでいきなり
実践(だけ)、という人が増えてき
ました。やや古い本ですが、都市経
済学の多くのトピックは既にこの
本にまとめられています。社会科
学においても、過去の知の蓄積に
学べば深い考察が可能です。

担当教員の研究

教員の情報

職位 准教授

専門分野 経営学、組織論、
リーダーシップ、キャリア担当科目 経営学、キャリアデザイン論、
経営分析、演習「ネットワークいっつながり」
という視点

私の専攻は経営学・組織論で、その中でもネットワーク組織論を専門としています。多数の人や組織が集まって活動する時の「つながり」に注目して研究をしています。

世の中の活動は個人や組織の「つながり」によって成り立っています。職場を見てみると、そこで働く人たちはお互いに「つながり」を持って仕事をしています。時には協力し、時には励まし合い、時には教え合いながら活動しています。個々の頑張りだけではなく、良い「つながり」があることで日々の活動がうまく行えているのです。

このような「つながり」は組織の枠を超えて広がっており、地域・社会は個人や組織の間の「つながり」

によってできています。そこで、地域・社会にはどのような「つながり」があるのか、個人はどのような「つながり」を持てばよいのか、どのような「つながり」があるか、どのような「つながり」があるのかを研究しています。

新しい働き方や働く場所

そこで、近年登場してきた新しい働き方や働く場所に注目しています(写真1)。新たなキャリア観やICT技術を活用したリモートワークは新たな「つながり」方と言えますし、様々な組織に所属する人が一緒に仕事をするコワーキングスペースは新たな「つながり」を生む場所と捉えられます。オンライン上での働き方やDXといった新たな動向も踏まえた実態調査を行っています。



大学生活では何事も自分から働きかけよう！

ゼミの活動内容

ゼミでは経営学、組織論、リーダーシップ、キャリアをテーマに学びます。世の中のできることは経営学に通じています」と言う人もいます。経営学・組織論の対象とする領域・事例は幅広く、ゼミ生自身の興味関心を反映した活動を行います。学んだ内容を卒業後も含めた実生活で活かすことが重要な分野でもあるので、ゼミ内外でのリーダーシップの発揮や、実務家インタビューやフィールドワークといったキャリアにつながる活動を行います(写真2)。興味関心のある学生がいれば、デザイン思考を用いた商品企画やビジネスプランの立案などにも取り組みます。

最大の特徴は、ゼミ内での「つながり」を重視したゼミ運営を一緒にやっていくことです。みんなで意見を出し合ってよりよい意思決定をし、それを実行して目的を達成するという組織の運営を、ゼミの活動を通じて肌感覚で学び取ってもらいます。テキストを用いた輪読・議論やゼミで何をやるかの話し合いなど、ゼミ生がリーダーシップを発揮して自分たちでゼミを進めていく場面も多くあります。同時に、学年を越えて一緒に活動し、在学中だけではなく、卒業後も続くような関係が築ければと思っています。そのため、良いゼミ(組織や新たな人間関係を自ら創り上げていきたいという意欲がある人の参加を求めています。

写真2



若林隆久研究室

堀尾志保・館野泰一(2020)

『これからのリーダーシップ』

—基本・最新理論から実践事例まで—

日本能率協会マネジメントセンター

リーダーシップについて、研究の変遷を追いつながりながら最新理論に至るまでをわかりやすく紹介してくれています。その身に付け方・教え方についても触れられていて、リーダーシップを身に付けたい人の参考にもなります。

